

# 提 案 概 要

実施期日	8月2日(火)
部 会 名	中学校 特別支援教育部会

## 1 提案テーマ 『新規担当職員を即戦力にする教室・教材・引継資料等の業務環境』 ～ユニバーサルデザインの視点を生かしたシステムづくり～

## 2 平成27・28年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

② 生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導計画, 指導内容, 指導方法, 指導体制, 評価の工夫と改善

## 3 学習指導要領との関連

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第1章 総則 第2節 第4 2(1)

学校の教育活動全体を通じて、個に応じた指導を充実するため、個別の指導計画に基づき指導方法や指導体制の工夫改善に努めること。その際、児童又は生徒の障害の状態や学習の進度等を考慮して、個別指導を重視するとともに、授業形態や集団の構成の工夫、それぞれの教師の専門性を生かした協力的な指導などにより、学習活動が効果的に行われるようにすること。

## 4 実践に向けての課題意識

特別支援学級においては、生徒個々の発達の段階や特性を把握することに始まり、次にその段階にふさわしい教材の開発・準備をして、ようやく指導のスタートラインに立つことができる。

自身の経験ではその本格始動までに数ヶ月を要した感があるため、新たに担当した教員がより早く適切な支援を開始できるような環境・システムづくりをめざした。また、その際に、ユニバーサルデザインの視点を「どのような生徒にも」だけでなく「どのような(経験・技量の)職員でも」に拡大して、検証・考察のベースに活用した。

## 5 実践の概要

- ①進級・新入学者に関する引継情報の市内共通フォーマットの作成
- ②系統性をもった教材・教具の整備
- ③見通しをもった予定・時間割の管理
- ④学校としての支援体制の整備

## 6 成果と課題

引継共通フォーマットの実用化によって、年度スタート時に個々の特性や到達状況をより具体的に把握できるようになり、教材・教具や予定表の整備によって、見通しをもった指導をし易くなった。また、全教員の理解も進み、多くの教員が特別支援学級での授業にかかわりをもつようになった。これは、より多くの教科について個に応じた支援の有効度を高めるとともに、インクルーシブ教育実現へのステップとしても有効な方向性だと考えている。

特別支援学級に限っていえば、より専門性の高い教員が各校に配置されることが理想である。しかし、急な実現が困難な現状の中で次の課題を挙げるならば、それは今回の成果を通常の学級の生徒にどう拡張できるか探ることだと考えている。通常の学級の中に少なからず見え隠れしている支援を要する生徒に対して、個に応じた支援をいかに進めていくか、学校体制としての検討・実践が望まれる。

## 7 予想される協議の柱

- ①新規担当職員の困り感と有効な方策  
…今回の実践の効果・妥当性の検証や、より良い方策の協議
- ②学校全体の支援体制  
…特別支援学級・全校の両方に役立つ体制を作る方策の協議